

2022年度第1回日本学連臨時幹事会議事録

【日程】 2022年6月22日(水) 20:00~0:20

【場所】 Zoomにてオンライン開催

【議事録作成者】 鈴木 璃土(筑波大学,責任者)、鎌倉 京平(筑波大学)

【目次】

1.2021年度決算案報告、2022年度予算案承認	4
2.インストラクタ講習会	5
3.学連HPの刷新について.....	9
4.2022年度インカレミドル枠配分に関する東北大の意見書について	11
5.部局報告	25

出席者（敬称略）

氏名	役職	学校名
山川 克則	副会長	東京大学卒
谷野 文史	理事	筑波大学卒
浴本 悠貴	幹事長	神戸大学
坂巻 朱里	副幹事長	十文字学園女子大学
中野 海斗	会計	神戸大学
永山 遼真	事業部長	筑波大学
荒木 孝大	事務局員	広島大学
鈴木璃土	広報部長	筑波大学
鎌倉 京平	広報部員	筑波大学
近藤 花保	普及部長	名古屋大学
宮川 葵衣	普及部員	東京理科大学
鷲津 加子	渉外部長	東北大学
衣笠 匠斗	会計監査	東京大学
谷川 友太	技術委員	名古屋大学卒
今井 里奈	技術委員会担当理事	椙山女学園大学
安田 壱耀	北東学連幹事長	福島大学
柴崎 愛有	北信越学連幹事長	新潟大学
市川 竣介	関東学連幹事長	筑波大学
島田 智也	東海学連幹事長	名古屋大学
徳力 雅哉	関西学連幹事長	立命館大学
松崎 莉子	中九四学連幹事長	広島大学

2022年度第1回日本学連臨時幹事会議事録

また、参考人として以下の方が参加した。

氏名	所属	目的
坂野 翔哉	オリエンテーリング業者 2016-2017年度日本学連広報部長	インストラクタ講習会の説明 日学HP刷新について
羽田 拓真	2021年度関東学連幹事長	昨年度幹事会での発言について 説明

(注)議論の本筋と関係のない会話は適宜削除している。

1.2021年度決算案報告、2022年度予算案承認

中野：400万円近くの赤字を計上した。収入として、2020年度のICMR貸付金が9万円。支出として、ICSLとして330万円。

次年度繰越金として、20,849,140円。

浴本：2021ISCLの貸付金3300,000円は例年のものか。

中野：今年のコロナ等の特殊な事情によるもので、例年のものではない。

中野：続いて予算案。詳細は資料参照。学連加盟費については、加盟員数のシミュレーションから、例年は250万円のところ230万円とした。

また、去年のインカレ貸付金330万円が返ってくるものとして計上した。

普及部などから予算をつけてほしいとのことで、そこに予算をふった。

SPUについても、要請があったため12万円をつけた。

浴本：支出で、ICSL赤字分補填とあるがどういうものか説明してほしい。

中野：ICSLの報告で、昨年度に30万円ほど赤字の補填がある。

衣笠：運営者の交通費等を勘案して、30万円ほど補填してほしいという話を幹事会で議論した結果、支出することとしたものである。

鈴木：活動報告書作成費について、数年間0円のはずだが、こちらはどのように考えているか。

中野：予算は主に前年度のものを踏襲する形になっている。そのため、ここ数年間活動報告書は発行されていないが、予算として付けている形。

浴本：予算案の承認を取る。承認は幹事長・副幹事長・部局長・地区学連幹事長で取る。

賛成：10

反対：0

棄権：0

浴本：議決権は全部で14あり、出席できていない幹事を考慮しても、過半数の承認が取れているため、予算案承認とする。

総会でもお願いします。

2.インストラクタ講習会

坂野：スライドを簡単に作成したものを共有する。

講習会は、7/2~3に、岐阜県で行われる。

時間がないため、学連からの参加者は見込んでいない。

次回を見据えた提案をここでしたい。

岐阜のものは県協会主催で、延期延期でこの時期になった。

6人参加者が集まったため、開催が決定した。

ぜひ学連の方にも来てほしいと思っているが、関西東海北信越中九四合同セレであるため、あまり参加者は望めないことは理解している。

講習会を最後にやったのはハウスで2018。1泊二日で30人ほど集まって交流しつつ、大会運営や新歓の情報共有とレクを行った。

途絶えてだいぶ経つが、機会があれば復活させたいと考えている。

講習会の意義は、新歓や運営に関わっているのは他の大学との関わりが強い人とは限らず、ほかの大学からノウハウを得られるとは限らない。そういった人やクラブに大会運営のノウハウを伝えることにある。さらに言えば、クラブや地域を越えてノウハウを共有するのがよりよいと考えている。

各大学の学生を集めて講習を行うことで、大学大会の開催安定化に寄与できる。

4-5年前の開催からノウハウが進化し続けており、開催負担が上がっていることや変わっていくノウハウについて、現場で関わり続けているプロから教えられることが多いと考え、開催している。

大学大会は、安定している大会もあれば不安定な大会もある。3~4年途切れればまた0からのスタートになってしまう。途絶える期間を短くするのも講習会は役立つと思う。

プロとしては、無茶なスケジュールや、OCAD入稿データがめっちゃめっちゃだったりという少しの知識で減らせるものを減らしていきたいという思いもある。

また、学生大会を公認大会にするための要件を満たしていないという問題がある。

公認大会開催には、ディレクタ資格+外部EAが本来必須。

しかし、ディレクタ資格は取得が学生には難しいので、インストラクタで代用して良いことになった。

このインストラクタを学連で養成することで、学生で公認大会を開けるようにしていく。

ただ、ディレクタ資格がJOAで廃止になるため、代わりの資格が必要になる。その資格についてはアナウンスされていない。

インストラクタ資格についても今後どうなるか不明。

ランキング対象大会は、EAと競技性の担保が確認される。資格がある運営者が内部にいたほうがランキング大会に選びやすい。

インストラクタ資格にしろ、代わりの資格にしろ、参加者が安心して参加できることや、運営者の負担軽減に繋がる。

インストラクタ講習会はJOAの会員は主催可能。

そのため、学連が開催できる。

内容は、初心者向けオリエンテーリング体験会の主催者を想定。

新歓などで初心者への教育は経験していると思うが、

県協会より踏み込んだ、大学大会を見据えた内容で行っていた。

大きな協会なら隔年開催している。

学連は最大勢力なので、しっかりと講習会を開催して欲しい。

2022年度第1回日本学連臨時幹事会議事録

クラブ内にインストラクタ資格保持者がいない、では参加するのはやめようとなるのは良くないため、せめて隔年では開催して欲しい。

前回はハウスだったが、取りこぼさないために遠隔地からの交通費を負担した。

学連から予算を出した。

基本的にはすべて無料。各クラブ2名上限で開催した。

遠いからやめようと思ってほしくない→全国の学生大会の質を上げるため。

浴本：現在都道府県協会もインストラクタ講習会を開けるとのことだが、どれくらい開催しているか。

坂野：2ヶ月に1度位の頻度でどこかの県協会で行っている。

山川：JOAで広報されるのは年に2回位。

浴本：そもそも開催していることを知られていないように思う。日本学連で広報するのがいいかもしれない。

坂野：前回ハウスでやった際は、学生でない方も1名いた。自分はディレクタ資格を静岡で取るときに一緒に取れた。EA→ディレクタ→インストラクタという構造。

浴本：各都道府県協会のインストラクタ講習会が開催されているかどうかは、各協会のHPを見ればよいのか。

坂野：JOAのHPに乗るはず。昔は開催頻度が高かったように思うが、最近はかなり少ない印象。

浴本：遠隔地からの交通費負担というのは、一般の方も含むか。

坂野：学生のみである。

無茶を承知でお願いだが、学生が岐阜の講習会に参加する場合は補助して頂けるか。

2022年度第1回日本学連臨時幹事会議事録

浴本：今年度の予算でインストラクタ講習会に55万円を交付してある。

坂野：もう一回開催するときにもその予算を使えるということか。

浴本：使える。

坂野：どちらに使うかは誰が判断するか。

浴本：主催者側、坂野さんに決めていただきたい。

坂野：効率的に使うのであれば別開催が良さそうに思う。

山川さんとも相談する。

山川：制度が揺れている時期なので、学連独自でもっと役に立つ内容にしたいと考えている。きちんとしたカリキュラムを示して、zoomで行おうと考えている。

坂野さんと相談して、オンラインの講習案を出して興味あるかを聞きたい。

下呂に来る人には、講師も鍛えなくてはならないので、全額でないにしろ、かなりの割合で交通費を補助したいと考えている。

浴本：予算の範囲内であれば、予算は自由に使える。日学幹事としてもぜひ一緒に活動させていただきたい。

山川：となると2~3人は来てほしい

坂野：今から学生にこの説明を広げる時間がない。

ここにいる方々が参加してくださるのが、一番相互に学びがあると思う。

鈴木：関東学連のついでで声をかけてみる。

坂野：山川さんへ。zoomの講習ではJOAに認められなかった。

実地をやってほしいという強い要望がある。全てzoomというのは考えられないということをお伝えしておく。

3.学連HPの刷新について

鈴木：学連HPはorienteering.comを間借りしているが、セキュリティの古いものが使われており、危険な状態にある。

もう一つ、システムが非常に古いものを使っているという問題がある。

特に前者の問題については信用問題にかかわる重要な問題であると考ええる。

木村さんより、orienteering.comのシステムを根本から変更する必要があり、すぐにはできないという回答を頂いた。

提案

前者は早急に対応する必要がある。

後者は長い時間をかけて解決する必要がある。広報部長は変わってってしまうため、HPを刷新するための委員会を作り、数年単位でプロジェクトを進めたい。

幹事会で決定したいこととして、①委員会の設置について、②予算について議論および承認の2点を挙げる。

谷野：異論はない。今回は方向づけがメインになる。

予算の見積もりと、委員会を作って本当に人が集まるかどうかを早めに決めるべきだと思うが、目処はついているのか。

鈴木：予算については目処がついていない。人については、目処はあるが、詳しくは決まっていない。

谷野：学連で動かせるお金は20万円以内であり、それ以上は総会の承認が必要である。議題をどこに出すかということと、お金の面については早めに検討すべき。

浴本：委員会を作るという方向でよいか。疑問点等あれば議論したい。

自分としては、新しく委員会を作ること懸念点はないと考えるが、ある方はいるか。

衣笠：今年度予算は先程承認を取ったが、もし新しく委員会を立ち上げて今年度中に活動する場合、お金がかかったらその都度申請することになるのか。

浴本：今年度に何かお金を使うことになるなら、その都度申請となる。

坂野：HP更新の話は5年前から出ては消え出ては消えという感じだった。

当時からしても古めのサイトであった。木村さんも、対応しようという形ではなかった。

まともな企業に頼むと大金がかかるので、これを、OBさんなどから人を集めて、なるべく安く行おうという話が行われてはいた。。

2~4年とあるように、1年ではどうしようもない問題である。多くのページを抱えているだけに、綿密に計画を練る必要がある、大きなプロジェクトになる。

最初の1年はまずプロジェクトを立ち上げることから。なので、最初の1年はさほどお金はかからない。長い目で見ることがある。

10年20年使えるものにしたい。

谷野：やりたいことはhttpsに移行すること？それとも新しく立ち上げる形か？

新しく立ち上げるほうが安い場合もある。

鈴木：今のところは急いでhttpsに移行し、最終的には新しいサイトを立ち上げて既存の内容を移し替える予定。ただ、検討の余地あり。

浴本：それについても、刷新委員会を立ち上げてからの話になる。

坂野：補足。なぜ今まで大昔から話されていたのに変わらなかったかということ、1年で幹事が入れ替わってしまうためである。委員会を作らないと考える時間すら生まれない。

浴本：地区学連のHPもリンクしているという認識で正しいか？

鈴木：その認識で正しい。学連HPを変えた場合地区学連HPも変わる。

浴本：意見を取り、立ち上げる方向で進めるかどうかを確認する。

賛成：12

反対：0

浴本：大まかな流れとしては、鈴木を委員長に置き、ベースについて話し合う。

理想としては、来年度の予算案のときに予算の承認について議論したい。

4.2022年度インカレミドル枠配分に関する東北大の意見書について

浴本：前回の話を振り返る。規約通り用いるということに幹事会で決定したが、その決定に対して東北大より意見書が出された。

10枠→5枠と大きく変動してしまうことを考慮して欲しいという内容。

案としては、

- ①従来通り規約を適用（全学連が2021ICMの結果を用いる）
- ②北東学連以外2021ICMの結果を用いる
- ③全部の学連で2021ICMの結果を用いない
- ④永山案（北東学連以外2021ICMの結果を用いる＋北東学連は別のインカレの結果を用いる＋日学枠で全部の学連が公平になるようにする）
- ⑤その他

が上げられた。

④は、ほか学連でも出られなかった大学を考慮し、日学枠を増やす形。

ここからの流れとして、自分の意見とその理由についてあらかじめ考えていると思うので、各案の票について聞いてみたいと考えている。

①：0

②：2

③：6

④：8

⑤：0

次に、なぜその案を選んだのか考えてきてもらった自分の意見を話してもらいたい。

浴本：②を選んだ理由としては、コロナという特異な状況で救済をしないのは北東学連に対して良くないのではないかと考えたため。

③は2021ICMを3年ぶりに開催したにも関わらず、2021ICMという本来なら2022年度ICMの枠配分の参照となる結果を完全に無視することが妥当ではないと感じた。

④は、日学枠についてまず説明すると、セレ落ちした選手に自己推薦してもらい、技術委員会+各地区のセレクションの実行委員が認めた場合エリートに出場できるという制度。

しかし、この場合日学枠を悪用して、あえてセレクションに出場しないといたことが懸念される。

鈴木：救済をしないというのは考えられないので①は除外した。

当初出る予定だった関東男子のエリートクラスの選手に対して、コロナによる大学の規制により出場できなかった関東男子の選手権クラスの選手はそこまで多くないが、これからも日学枠が常態的に用いられるリスクがある。

日学枠はつけずに、北東のみ救済するというのがよいと考える。

日学枠は、北東の救済のバランスを取ることと思うが、他学連の出られなかった数校を救済していることになるのではないかと。

坂巻：③を選んだ理由を述べる。ほとんどの意見は②案と同じだが、違う部分は北東のみを救済するか、全国をリセットするかの違いだと思う。北東のみ過去のものを用いる形だと、関東が救済できないのではないかと。慶應などの大学を見放すことになってしまう。

④案については、人的コストがかかりすぎると考える。

③案であれば絶対に全国が平等であること、過去のミドルの枠計算にロングを使った前例がある(ICM2021にICL2021を適用した例)以上、2022ICLの結果を2022ICMに用いることが可能ではないか。

柴崎：②の2人もあげているが、日学枠が悪い方向で定着してしまうのでは無いかという懸念があった。実力のある選手がわざと外れたり、今年も日学枠を～、となるのは良くない。

今年度のロングなど、直近の成績で決めるのがよいと考える。

安田：北東の救済はしていただきたいが、②だと北東のみ救済されるので不公平。

コロナの影響が不透明であるため、毎年、日学枠の是非について幹事会内で議論すると手間がかかってしまうというのが④を除外した理由である。

市川：ほとんど皆さんの意見と変わらない。①から③のどれかが良いのでは無いかと思う。インカレの枠のほとんどは前年度実績枠だが、もっとも公平なものは一昨年のものであるのではないかと。

②については、関東の大学でも不出場校があり、不公平であると考えている。

④についても、今年に限る特例ならいいが、今後このようなパターンがあったときに前例となってしまう可能性が高いと考える。

松崎：救済するなら全学連平等になるようにしたほうが良いと考える。

④については、異例であること、手間や考えられうる不利益について不安であるため除外した。

荒木：前述した皆さんと同意見である。

浴本：③についての意見をまとめる。

③を選んだ主な理由

- ・平等であること

④を選ばなかった理由

- ・日学卒の定着を恐れる

②を選ばなかった理由

- ・北東学連以外に出場できなかった大学を救済できない

②についてもまとめる。

②を選んだ理由(③を選ばなかった理由)

一番新しいICMに出場して枠を取った選手に対して不公平

④を選ばなかった理由

- ・日学卒悪用の懸念

④について意見のある方は意見をお願いしたい。

鷺津：消去法ではあるが、①は北東学連の救済が無いのは北東学連に対して非情ではないか。③については、昨年度ICMが開催されているので、それに出場した選手の頑張りが報われないのではないか。②は日学卒の有無だが、日学卒がたくさんこれから使われるのではという意見があったが、審査が入り、上限はあるけど下限は無いということで、厳しくすれば皆がたくさん使えるような枠ではないから、問題ないと考えている。

近藤：②での意見の捉え方が違う形だが、枠に占める割合にかかわらず、北東学連のみを救済するのは違うのではないかという意見。

前例は作ってしまうが、こういった議論があったことを残した上で、インカレ前に枠計算の決定をすることを徹底すれば問題は起こらないのではないか。

今回は、インカレ直前に東北大の不出場が決定し、時間がなかったという形であるが、

今年もしもこの議論を危惧していれば、直前でも議論が行えたと考える。

今回の議論で、技術委員会で引き継がれると思うので、日学枠の悪い意味での定着は起こらないのではないかと考える。

浴本：事前に枠配分方法を決めておくべきというのはその通りである。

また後日別の幹事会で、コロナを踏まえた枠配分決定方法について議論したい。
イメージとしては、各地区学連で〇割以上出場できた場合は枠配分に用いるなどのルールを事前に決める形。

近藤：去年遠藤さんが述べていた通り、枠配分の話を事後に行うことは非常に良くないということは皆さん大丈夫だとは思いますが認識しておいて欲しい。

永山：②の人で日学枠の悪用の話が出ていたが、結構速い人も立候補していたが、1~2人しか通っていない。技術委員会と実行委員会でしっかりと審査されていたので、悪用しようにも厳しいものであると思うので、悪用はしにくいのではないかと考える。

また、やった後に枠をいじるのは良くない。③よりも④が良いと考える。

鎌倉：皆さんと大体同じ意見である。北東学連だけでなく関東の出場できなかった大学も救済されるべきだというのが主な考え。

浴本：それぞれの案をまとめて行くが、②~④のマイナス面を上げ、どれが一番マイナスが小さいかという観点から1つにまとめたい。この議論は正解がなく、この意見ならまだ納得できるというような形で決定していくほかないと考えるが。

この意見に対して反対の方がいればお願いします。

反対がないためこの方向性で議論する。

まず②のマイナス面を挙げていく。

- ・北東学連以外を救済できない
- ・規約に沿わない決定である

③のマイナス面

- ・規約の通り、昨年度の同種目から枠配分を決めるべき

開催されたのにも関わらずその結果を用いないのは不当である

- ・ 出場して枠を取った選手から不満が出る可能性がある
- ・ 2021ICMの枠配分が2021ICLの結果で決められているため、ミドルの競技力を反映できているとは限らない

④のマイナス面

- ・ 規約の中に日学枠は無く、このシステムが常態化し複数回利用されると、救済の範囲を不必要に広げてしまうのではないか。
- ・ 日学枠は選ぶのに人的コストがかかってしまう

市川：今までの議論は前年度実績枠についての話だと思うが、前年度個人実績枠の話も出てきてしまうのではないか。そして、日学枠でその部分を吸収できるのではないかと考えた。

2021ICMの結果を用いず（③案）、日学枠を設ける形。

浴本：この意見を⑤として検討する。

⑤のマイナス面

- ・ 日学枠関連の懸念
- ・ ③のマイナス面
 - ・ 規約の通り、昨年度と同種目から枠配分を決めるべき
開催されたのにも関わらずその結果を用いないのは不当である
- ・ 出場して枠を取った選手から不満が出る可能性がある
- ・ 2021ICMの枠配分が2021ICLの結果で決められているため、ミドルの競技力を反映できているとは限らない

永山：北東学連が意見書を出しているというところから話が始まっているが、北東は個人実績枠については触れていない。個人実績枠にまで話を広げすぎると、收拾がつかなくなるのではないか。前年度個人実績枠分ではなく、単に③に日学枠を設けるという意見として扱うのが良いのではないか。

鈴木：単に③に日学枠を設けるという方針だと、2021ICM以外の成立したインカレの平等な記録を用いて計算しているところに日学枠を足すことになるので、意見として成り立たなくなってしまうのではないか。

永山：そのとおりだと考える。

市川：同じくそのとおりだと考える。

浴本：⑤として挙げられた意見について、議論すべきか意見をとる。
反対意見がないため、⑤については議論しないこととする。

浴本：ここからの議論の流れについて、日学枠を設けるかどうかの議論をまず行う。
設ける場合は④の詳細を詰める。
設けなかったとした場合、④が除外され、②か③かの議論となる。
②か③を選ぶ際は、②の不利益と③の不利益を比べて小さい方を選択したい。
②の一番の不利益は北東以外を救済できないこと。
③の一番の不利益は、最新のICMRの結果を用いないことで実際に出場した選手にとって不利益が生じるということである。
この議論はどうしても折り合いが付かない可能性も大いにあると思うので、最終的には多数決となるが、できるだけ議論して意見をすり合わせた上で多数決を取る形にしたい。

浴本：反対意見が無ければこのまま進める。

坂巻：②③と④の論点が日学枠というのは問題ないのか。

浴本：マイナス面を潰していく方向だと論点が多いため、論点のずれる可能性が高いと考えるので、まずは日学枠基準で進めたいと考えている。

まずは一度日学枠を設けるかどうか意見を聞きたい。

設けるべき：8

設けるべきでない：8

では日学枠についてそれぞれの意見を出し、議論して欠点を潰していく形にする。

設けるべき

- ・平等に救済が出来る

設けるべきでない

・どれだけ減少したら救済するという基準が決められていない（北東ほどは減少していない他の学連などについて）（鈴木）

・日学枠を設けたとして、次回にまた違う理由で出られなかった大学が日学枠を要求してくる可能性があり、前例が残ると後々まで議論が必要になってしまうのではないか。あくまで例ではあるが、推薦が1枠しかないのに、セレに2名有力選手が出られなかったときに日学枠を、といった拡大解釈が生まれてしまうのではないか。

救済範囲をある程度決めるべきであると考え。（浴本）

・日学枠で救済されるのはかなりのトップ選手のみという方針になるとすれば、平等に救済されるとはいえないのではないか。（柴崎）

・日学枠を争うために、出られなかった慶應と東北の人が戦うことになりうるのは、それは平等ではないのではないか。全部の大学が出せる日学枠だからこそ、出られなかった大学を救済することにはならないのではないか。（坂巻）

・具体的に何枠にするのかを決めないままに設けることを決めるのは微妙なのではないか（市川）

永山：枠数については決める委員会があるから、枠数の最大は決めなくて良いのでは無いか。5人取るではなく、最大5人取るということだからあまり考えなくて良いのではないかと思う。

続けて、日学枠を出した理由として、個人的に北東だけで良いのではと思っていたが、前関東学連幹事長の羽田くんが関東についても救済をして欲しいと主張していたため、その両方を満たせるように出した案。出られなかった大学を救済するのではなく、北東学連を救済するものだから、他の学連にも救済というよりは枠の増加をするというものであると考えている。

浴本：おそらく出られていないのは北東と関東と関西。

2022年度第1回日本学連臨時幹事会議事録

例えば中九四では全ての大学が出られており、コロナの影響を受けていないのに日学枠で出場するのは違うと考える。

永山：羽田くん曰く、慶應では枠獲得や入賞が出来る選手が出られていなかったというのがあるので、それだけ強い選手が出られなかったのであれば、そういった選手は日学枠で救済できるだろう、という考え方だった。少し偏った意見ではあるので、日学枠を設けないほうが良いという意見が出るのも理解できる。

個人的には、出られていない大学がある学連が、北東のみ救済でよいとするなら、その決定でよいと考える。

浴本：現関東学幹事長はどのように考えているか。

市川：日学枠の意図は関東でも実績がある選手が出られていないのでそこを救済するということか。

永山：そういう意図である。

鈴木：各地区学連の意見を吸い上げて議論するのはどうか。

永山：時間があるならその方針もよいと考える。

日学枠を出したのは関東からの意見であるので、関東の加盟校全てがそう感じていないなら日学枠を設けなくても良い。

羽田：有力選手云々というよりかは、出られなかった選手が一定数いるため、その選手たちによって得られた枠があった可能性があるのではないかという論旨であった。

永山：枠についての話を拡大解釈したことで日学枠についての議論になってしまった可能性がある。「枠を取れる可能性がある選手が出られなかった」→「日学枠で救済しよう」という考えになった。

羽田：10人単位以上で出場できなかった学連は関東と北東のみであったので、先程の話をした。

2022年度第1回日本学連臨時幹事会議事録

浴本：コロナで不出場校であった大学のみの日学枠を設けるというのはどうか。

衣笠：今回の問題は、従来の枠配分を採用したときに、本来取れた枠数より少なくなってしまいう学連があることだと思うので、大学単位での話にはならないのではないかな。

浴本：不出場校のあった学連に推薦を認めるということはあるか。

衣笠：その方針はあるのではないかと考える。

ただ自分の意見として、一番問題と考えているのは、日学枠を設けたところで、今回救済したい「枠が減ったことで出場できなくなった選手」、つまりボーダーライン上の選手を救済できるのかということかと思う。トップ層のみを日学枠で採用する方針なら、こういった選手は救済できないのではないかな。

浴本：まず、各地区学連の意見を吸い上げることはしたほうが良いのではと考えている。決定に対して意見書を提出する形だと時間がかかってしまうのではないかな。

近藤：そもそも救済をするかしないかについても、地区学連ごとに意見が異なる。幹事会として救済を前提として考えているが、それ(①案の存在)を地区学連に伝えるかどうかもある必要があると思う。

浴本：その意見については全く考えていなかった。

近藤：地区学連には、幹事会としては救済をしたいという方針で考えているが、もし救済をしたくない理由があればその意見で出しても構わないと伝える程度で良いのではないかな。

浴本：救済したくない理由として、救済をすることで自分の地区の枠が減ってしまう可能性を挙げる地区がある可能性がある。

近藤：不満を持つ人がいるというのは承知のうえで、幹事会で出たメリットデメリットをすべて下ろせば理解してもらえないのではないかな。

浴本：救済措置も含めてまるごと地区学連に下ろすということか。

近藤：そうしないと各地区学連の意見をまとめることは難しいのではないかと思います。

鈴木くんが言っていたのは、地区学連ごとの意見が欲しいということか。

鈴木：そうである。

近藤：であれば幹事会の意見を全部伝える方針で良いのではないか。

浴本：今回地区学連の意見が欲しいのは、日学枠を設けるかどうかを議論するためであるので、その部分のみ聞くのがよいのではないか。

近藤：日学枠について意見を求めるのであればそれだけで、ただ、地区学連で救済そのものの是非について話が出る可能性があるので、経緯を説明する必要や、他の意見を再度出す必要が出てくるのではないか。

浴本：幹事会として、北東学連は救済すべきであるという合意がある。

近藤：それを前提として、地区学連にどう意見を求めるのかを決める必要がある。

浴本：救済すべきである理由を伝えた上で、日学枠について意見を求めればよいのではないか。

市川：整理すると、北東学連を救済すべきという前提で、他の学連を救済する方法として日学枠を設けることの是非を、各地区学連でまとめるという認識でいいか。

意見を求めるのは、主に日学枠についてであると思うが、おそらくそもそも救済するかどうかという意見も出てくるので、その意見も吸い上げはするという形か。

浴本：まず北東学連を救済するということの合意があった上で日学枠を設けるかどうかの議論を進め、北東学連を救済する必要はなく、従来通り規約を適用してほしいとい

2022年度第1回日本学連臨時幹事会議事録

う意見が出てきた場合は、これまでの日学の議論を示すことで納得してもらえるのでは。

永山：まず救済するかどうかを決定した上で、方法についての意見を求めれば救済しないという意見は出てこないのではないか。

日本学連幹事会は全学連からみてフラットな立場で議論した結果、北東の状況から救済することにした、その他を救済する方法について様々に考えるという方針がよい。

坂巻：救済するというのは日本学連幹事会(上位組織)が決定したことであるので、それで議論の余地はないと考える。

鈴木：日本学連の最上位組織は総会なので、加盟校から議事が提出されて否決された場合はこの決定はなかったことになる。

浴本：日本学連幹事会としてこの決定です、という方針でよいと考える。

ここで議決を取る。

北東学連を救済すべき：12

北東学連を救済すべきでない：0

棄権：0

欠席：2

日本学連幹事会として、北東学連を救済することを決定した。

また、北東学連以外に、コロナによる不出場校があったことによる不平等を解消する案として、日学枠を設ける案が妥当か各地区学連に意見を募集する。

各地区学連幹事長で、意見募集するに当たって質問等がありますか。

2022年度第1回日本学連臨時幹事会議事録

市川：意見募集は、意見を募集して終わりか、学連として意見をまとめるかどちらか。

鈴木：自分としては、地区学連ごとの意向をすり合わせるのがよいと考えるので、地区学連総会や幹事会でまとめてもらう形になると考えていた。

浴本：仮に意見が僅差であっても、一つの意見としてまとめるべきか。

鈴木：そうしないとまとまらないと考える。

市川：期限はいつ頃にするか。

浴本：ここからの流れとして、①地区ごとの意見をまとめる。②各地区学連の意見を交えて議論する。③日学枠を設けるかどうか決める。と考える。

近藤：枠配分を確定させる時から逆算していくべきと思う。

浴本：インカレロングの結果が、インカレミドルの枠配分に影響を及ぼす可能性があるもので、インカレロング前には確定させたい。

9月頭までとなると思う。

近藤：学連で話し合う時間が必要。ロングセレやスプセレもあるので、それが終わるまでに各地区の日学枠についての意見を聞き終えるのがいいのではないか。

浴本：8月初旬ごろになるか。地区学連から意見を吸い上げたあとも議論に時間がかかると思うので、7月の15までに地区学連ごとの意見をまとめられると助かるが、厳しい地区学連はあるか。

安田：北東は問題ないと思います。

松崎：中九四も問題ないと思います。

柴崎：北信越については自分の都合(JWOC)で間に合わない可能性がある。

2022年度第1回日本学連臨時幹事会議事録

とりあえず各校からまとめる形で問題ないか。

浴本：総会を開くのが厳しければ、幹事長でまとめてもらえればと思う。

市川：関東はセレでごたつた場合7月末になる可能性がある。

徳力：関西も15までにまとめられるよう努力する。

島田：東海も15までにまとめられるようにする。

浴本：7月最終週までにまとめてもらい、その後議論したい。

幹事会の日程調整はSlackで行う。

確認だが、仮に日学枠を設けるべきが多数であった場合、④案でスムーズに進むと思うが、②か③になった場合、不利益を勘案して議論するということであったが、それについても聞いておくべきではないか。

鈴木：それについても確認するべきであると思う。

坂巻：②③対④を深掘りしてから②と③を比較するなら、②と③と④を最初から比較するのと同じではないか。

近藤：日学枠を設けたい理由は、北東学連以外に出られていない大学の選手が枠を取れた可能性があるというところで、もし北東を救済するのみで全学連が納得するのであれば必要ないものである。

坂巻：日学枠を採用しないからといって北東学連を救済しないわけではないということも補足する必要がある。

浴本：地区学連に意見を求めるための統一の文章を作成する必要がある。

坂巻：議論を戻すと、②③についても並列で意見をまとめたほうがいいのではないか。

浴本：まとめると、日学枠を設けるかどうかについて意見を募集した上で、②③④のどれかを幹事会内で決める方針で進める。

文章は、できれば今週中に幹事長と副幹事長と地区学連幹事長で作成する。

枠配分の議論については今回はここまでとする。

5.部局報告

浴本：幹事長について(詳細は資料参照)

幹事会の様子を写真で撮って広報することを検討中。

OBさんから「アラサーティアと学生ティアの対談企画」が来ているが事業部普及部的にはどうか。

永山：あまり学生側にメリットが無いように感じる。また、学連ではなく有志でやる形でもいいのではないかと思う。直接企画したOBさんと話せる機会があるので、そこで学生側のメリット等を聞いてみる。

坂巻：副幹事長は、それぞれのMTに出席したこと、昨日マイナビさんとミーティングを行った。日本学連公式の名刺を作成したので、希望者に渡す。日本学連として加盟員のキャリア形成を助けるプロジェクトを進行中。

NPO法人複数とやり取りをしており、筑波がやっていたような小学生向けの普及プロジェクトについて進めている。

永山：事業部は下記事業を検討中。簡単に意見を聞きたい。

○新規事業案

①ランダム大学対抗合宿or対抗戦

②全国ズーム地図読み

・層をしぼる方が良い

・講師的な人を呼ぶ？

③キャンパスOツアー

・キャンパス内に外部入れて良いのか？

④ユニバを観る会

学生の世界選手権ということで日本学連が主体となりユニバの応援イベントを開催。そこで選手への寄付を募り応援金として渡す。同じ学生が世界の舞台上で走る姿を全国の学生が見る機会に！

インカレ参加者数増につながる？！

近藤：普及部の部局報告を行う。マナー教育資料を更新。各校で教育をしてもらっている状態。やっていない大学があれば代表に伝えて欲しい。明日リマインドした上で総会でも幹事長からお知らせしてもらおう。

浴本：会計局の中野から言伝を預かったので代読する。第一回幹事会の交通費を振り込みました。

地区学連への賛助金フィードバックを入金したので確認して欲しい。

第1回幹事会の経費申請を6月中には行ってほしい。

荒木：事務局からは、学連登録の紙の提出が6月末締切。新人のみ8月だが、継続は6月末と締切が迫っているなので間に合うように提出して欲しい。

追加登録扱いになり値段が上がってしまいます。

衣笠：予算案決算案を確認した。今後は個人のタスクとして会計に関する規則をある程度改定する必要がある。

浴本：自分も規約改正に取り組む。

鈴木：広報部はHPをたくさん更新した。いぶきを発行した。

今後としては、次のいぶき発行のために、ユニバー選手へのインタビュー、（加盟人数のアンケートなど）。また地図販売についての更新などがある。

浴本：今回の幹事会は以上で終了とする。